



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

## 命を育む豊かな自然

# 「妙岐の鼻」環境調査について

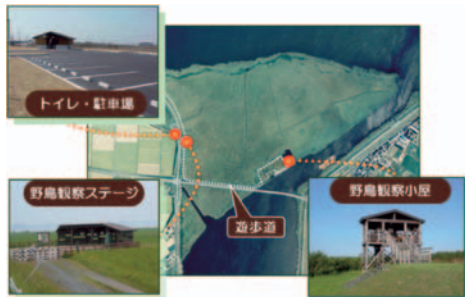
### 「妙岐の鼻」とは

霞ヶ浦は、カサスゲ・ヨシといった湿性植物群落、抽水植物群落やアサザ・ヒシ・エビモ等の浮葉植物等が分布し、平成8～22年度に行った植物調査では、約350～450種の植物が確認されており、これらは、水辺の生物を育む母体となっています。

その中でも妙岐の鼻は、霞ヶ浦（西浦）の南西に位置する面積約52haの霞ヶ浦最大の低湿地で、ヨシを主体とする湿性植物群落が分布しており、昭和53年には、環境庁（現環境省）により、特定植物群落に指定されています。

また、このヨシ原は、鳥類などさまざまな生物の生息場となっており、霞ヶ浦全域でよく見られるオオヨシキリが数多く生息している他、貴重な種である、オオセッカやコジュリンの越冬地、繁殖地としての利用が確認されており、自然環境が豊かな貴重な場所となっています。

霞ヶ浦開発事業では、妙岐の鼻地区の自然観察に配慮した施設整備を実施するとともに、貴重な植物群落及び鳥類等の環境調査を、管理開始以降、継続して実施しています。



「妙岐の鼻」地区の整備状況

### 「妙岐の鼻」の環境調査

利根川下流総合管理所では、霞ヶ浦開発事業の管理開始に伴い、運用開始後における自然環

境の変化を把握し、霞ヶ浦の管理に資することを目的とした環境調査を実施しており、妙岐の鼻地区では、植物群落組成の変化及び妙岐の鼻地区を生息環境とする鳥類のテリトリー分布等について継続的な調査を実施しています。

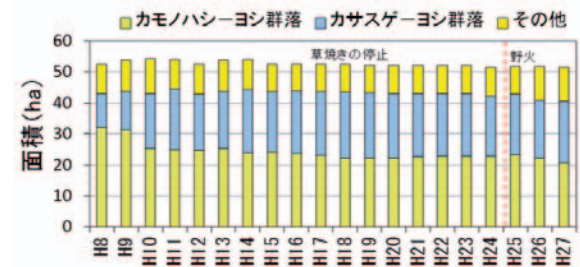
植生の経年調査における全体面積はほぼ一定ですが、運用開始直後はカサスゲヨシ群落の面積割合が増加しており、鳥類のテリトリー分布への影響も含め引き続き調査しています。



主な鳥類（左：オオセッカ、右：コジュリン）



主な植生（左：ヨシ、右：カモノハシ）



植物群落（カモノハシ・カサスゲ）の経年変化

### 今後の取り組み

妙岐の鼻地区については、引き続き霞ヶ浦における水位変化等に対する環境への影響を把握し、豊かな自然の保全に努めるとともに、野鳥をはじめとした自然観察など多くの方々に利用されるような管理を目指してまいります。